

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780132

研究課題名(和文) アナリティカル・アプローチによる欲望思想の新角度からの研究 経済学基礎仮定の解明

研究課題名(英文) History of desires by analytical approach; economic presumptions

研究代表者

野原 慎司 (NOHARA, Shinji)

東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・講師

研究者番号：30725685

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：経済学においては、理論上、各人が欲望を満足させるように行動することを前提としている。しかし、欲望の存在が前提とされてしまっており、欲望とは一体何かということは不問に付されている。そこで、本研究では、経済学において欲望とは何かを探求することにした。

その目的を達するためには、過去の思想家・経済学者が欲望をどう捉えたかを把握することが重要である。過去の思想家における欲望の把握の上に、経済学における欲望の理解が成立しているからである。具体的には、経済学形成期である18世紀に欲望がどう捉えられたかに関連する論文を敢行し、学会報告を実施した。

研究成果の概要(英文)：Economic theory presupposes that each individual behaves to maximize his or her desires. However, it does not question what desires are. Thus, this research is to examine what desires are in economics.

To attain this goal, it is important to grasp how past thinkers and economists grasped desires. Their understanding of desires was the foundation of desires in economics. In concrete, desires at the beginning of economics in the eighteenth century were researched. As a result, essays have been published, and presentations were given.

研究分野：経済学史

キーワード：欲望思想 思想史 経済学史

1. 研究開始当初の背景

人間は、欲望を持つことによって行動の動機を得ている。このことは、近代においては特段の否定の対象とはならない「自明」の前提であることが多い。ところが、古代の諸倫理学や中世のキリスト教倫理においては、これは「自明」の前提ではなく、自己の欲望は否定の対象であった。それは、一つには、欲望は人間が自己ではコントロールできない衝動によっているのであり、欲望は自分を見失わせる原因であるとの考えからであり、もう一つは宗教的価値観からであった。欲望は自己と対立していた。これに対して、初期近代にあっては、アダム・スミスをはじめ、欲望に基づく活動(経済活動)を人間行動の正当な源泉とみなした。

では、この「近代」の欲望肯定論への転換はどのようにして生じたのであろうか。それを解明することは、経済学が前提とする欲望観の解明にもつながる。むしろ、ここでの古代・中世と近代との対立の構図は粗暴であり実情ははるかに錯綜している。したがって、古代・中世の欲望論を一律に切り捨てるのではなく、錯綜した思想史の系を解きほぐし、丹念に解明し、古代・中世と近代の欲望論の連続性をも考慮する必要がある。しかし同時に、古代・中世の欲望論と近代の欲望論にある差異もまた歴然たるものである。連続性を視野におさめながら、同時に古代・中世の欲望論と近代の欲望論のあいだの断絶をも解明することが本研究の課題であった。

近代への欲望思想の転換点に経済学は位置する。経済学は、人間の主観的な欲求の満足という基準を基礎として構築されている。経済学の基礎を築いたアダム・スミスをはじめ 18 世紀の経済学者も欲望論を自らの経済学形成の基礎としたが、肝心の欲望思想そのものについては未解明の点が多い。その点の解明が、研究開始当初の背景であった。

2. 研究の目的

本研究は、スミスを中核に据えつつ、経済学の形成期に当たる 18 世紀の欲望の思想史を研究することで、知られざる経済学の基礎仮定の掘り起こしを行うものである。それにより、「自明」とされがちな欲望について、その多様な側面の重層的かつ徹底的な考察を行う。それを、経済学の基礎仮定についての再検討へとつなげる。

3. 研究の方法

基本となるのは、諸文献の入手を通じて研究に必要な文献を手に入れた上で、研究を遂行することである。なおかつ、各年度一回ずつ国際的学術研究会に参加し、国際水準の研究を行う基礎作りを行うとともに、研究者同士の国際ネットワークの構築をは

かる。また、各年度一回ずつ国際学会にて報告を行うことで、国際水準の学術的評価を受けるための基盤を構築する。さらに、研究成果の英語学術誌への投稿を行う。これにより、具体的に国際的水準の学術研究を行っているということの明示的な成果と示すとともに、将来的に、国際的な学術上のブレイクスルーを行うために必要な条件の整備を行う。

4. 研究成果

経済学上の欲望の観念が、狭義の経済理論に留まらず、広く、社会・世界の理解のあり方と関連していることが明らかにされた。また、博物誌における自然理解、および戦争の理解が、いかに経済学者の欲望理解の形成に寄与したかを明らかにした。

第一に、初期近代の欲望論を、アナリティカルアプローチを用いて分析することにより、これまでには見過ごされてきた、欲望論を思想家が叙述した際の明言されない問題意識を析出した。それにより、思想家がそれぞれの欲望論を展開した際の価値選択をも明らかにできるし、単に思想家の言説を数珠つなぎにする形の思想史ではない、新たな形の思想史叙述の提言も行った。

第二に、欲望とは何かという、経済学が前提としながら必ずしも十分な考究の対象になってこなかった点に焦点を当てた。経済学は欲望について特定の見解を仮定している。ただ、欲望それ自体は何かについては特段の研究の対象とはせず、欲望の存在を自明のこととしてきた。欲望それ自体に焦点を当てるとは、経済学が前提とする仮定の、思わぬ側面の掘り起こしにつながる。

拙研究の意義としては、初期近代の欲望論の掘り起こしにより、現行の経済学が前提とする欲望観が「自明」ではなくある「価値選択」に基づいていたことの解明、および現行のもの以外の欲望観をベースとした新たな経済学の構築へ向けての可能性を切り開くことである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

野原慎司、アダム・スミスにおける貧困対策問題、経済学論集、2015, pp. 74-90(査読なし)

[学会発表](計 11 件)

野原慎司「サン・ピエールにおける戦争と平和」、社会思想史学会第 41 会全国大会、於：中央大学(東京都・文京区)、2016 年 10 月 30 日

野原慎司 "Adam Smith's science of

commerce", The History of Economics Society, June 18, 2016. Duke University (Durham, U. S. A.)

野原慎司「『アダム・スミス文庫』から見えるスミス像」, 経済学史学会第80回全国大会、於：東北大学(宮城県・仙台市), 2016年5月21日

野原慎司"The effects of commerce and war in Adam Smith", 4th ESHET-JSHET conference, 小樽商科大学(北海道・小樽市), 2015年9月13日

野原慎司"Adam Smith on the value of silver," International Society for the Eighteenth-Century Studies, Erasmus University (Rotterdam, Holand), July 30, 2015

野原慎司"Commerce, economic development, and equilibrium in Montesquieu, Hume, and Smith", The History of Economics Society, June 27, 2015, Michigan State University (Michigan, U. S. A.)

野原慎司"Tracing Adam Smith's thinking, from archival research in Adam Smith's Library at the University of Tokyo"、Manchester University (Manchester, Britain), September 9, 2014.

野原慎司"Liberty and Inequality in Smith and Condorcet"、Lausanne University (Lausanne, Switzerland), May 28, 2014.

野原慎司「コンドルセ：フランス革命との関連で」, 経済学史学会第78回全国大会、於：立教大学(東京都豊島区), 2014年5月24日

¹⁰野原慎司「チュルゴとスミスー未開社会の平等と文明社会の不平等をめぐって」, 大阪産業大学(大阪府大阪市), 日仏経済学会全国大会、2014年5月17日

〔図書〕(計 4 件)

野原慎司"Hume and Smith on morality and war" in A. Rosselli and Y. Ikeda (eds.), War in the history of economic thought: economists and the questions of war, London: Routledge, 2017 (forthcoming).

野原慎司"In the Library of Adam Smith", in P. J. Corfield and Leonie Hannan (eds.), Hats off, gentlemen: changing arts of communication in the eighteenth century, Paris: Honoré Champion Éditeur, 2017, 199-216

野原慎司「啓蒙の世界観ーポープとスミスの「見えざる手」」, 長尾・坂本編『徳・商業・文明社会』, 京都大学学術出版会、2015, 223-241

野原慎司「テュルゴとスミスにおける未開と文明ー社会の平等と不平等」, 田中秀夫編『野蛮と啓蒙ー経済思想史からの接近』, 京都大学学術出版会、2014, 429-456

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

野原 慎司 (NOHARA, Shinji)
東京大学・大学院経済学研究科・講師
研究者番号：30725685

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()